



笑顔



芝山町立芝山中学校
第1学年 学年だより
第6号 令和6年9月2日

～ 学年主任の言葉 ～

夏休みを終え、いよいよ2学期が始まりました。みなさんは、夏休みをどう過ごしましたか？自分の好きなことを行ったりリフレッシュしたりできたでしょうか？また、学習に力を入れた人、部活動に夢中になった人、家族の役割を果たした人など、自身の成長のために努力できたのであれば、充実した夏休みといえるでしょう。しかし、努力したことよりもリフレッシュが多かったという人は、以下のことに気になしてみましょう。

《 身に付けたい力 ～根気、一步一步着実に進む～ 》

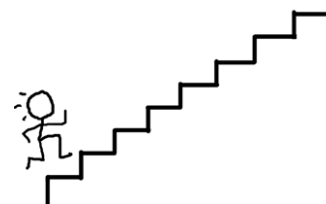
スイッチを入れてチャンネルを選ぶだけで、すぐに見たいテレビ番組が見られる。物が無いのに気付いても近くのコンビニに行けばすぐに必要な物が手に入る。ネットを使えば調べたいことがすぐにわかる。

現代では、こうしたことが当たり前の状態になっています。だから、何でも「すぐに、すぐに」と思ってしまう場面が至るところで見られます。

例えば、体育の授業でもすぐに、「試合、試合」と言う。しかし、まだろくにルールも知らないうちからでは、試合になるはずがない。「基本の習得」ののちに試合があるという当然のプロセスを待てない人もいます。それだけではなく、「今できないこと＝苦手なこと」という錯覚を生むことさえもあります。本当に苦手な場合もあるが、多くは「根気」不足が生んだ苦手意識の方が多いかもしれません。

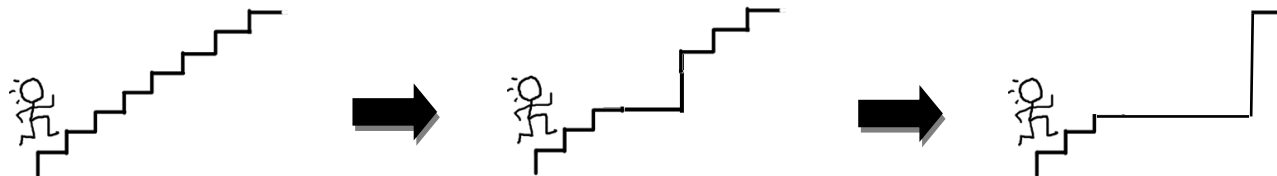
「数学の階段」

数学はこんなふうに階段になっていて、いくら中学生の教科書だって、いきなり難しくなるなんてことは絶対にない。だから毎日、毎時間、一歩ずつ一段ずつきちんと登っていけば、必ず高いところに行けるようになっていきます。



例えば、今日の授業、きちんと学習して、きちんと復習してきちんと理解できたら、一段登ったということになります。でも、こういう人がいます。一生懸命にやったけどよくわからなかった。そこまではいいのですが、その後が大事です。よくわからなかったから、もう一度復習してみる。先生に聞きに行く。そうやってわかるまで「根気」よく努力する。そうすることで、ちゃんと一段登ったことになっていきます。

しかし、中には「よくわからなかったけど、まーいいや」としてしまう人がいます。これはいけません。きちんとやらなかった人、わからなかったのに「まーいいや」と放置してしまった人はこの一段が消えてしまう。さらに次も「まーいいや」となると、また消える…また…。



こうなって（登れなくなつて）から、「あー、数学は難しい！数学は苦手だ！」となってしまいますのです。どこがいけなかったのでしょうか。何を直せばいいか、わかりますよね。

「根気」とは、ただ「続ける」のではなく、一時一時をおろそかにしないということです。

一時間一時間、しっかり階段を登っていきましょう！

社会教育学者、平 光雄氏の著書より